

令和 5 年 2 月 22 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立今市中学校
校 園 長 名 :	赤 坂 寛 臣
電 話 :	06-6952-0371
事 務 職 員 名 :	糀 谷 龍 太
申 請 者 校 園 名 :	大阪市立今市中学校
職 名 ・ 名 前 :	首 席 近 藤 隆 裕
電 話 :	06-6952-0371

研究コース	
グループ研究 A	
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)	
682513	
選 定 番 号	141

令和 4 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 4 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	学び続ける生徒の育成 ～誰一人取り残さない今市スタイルの構築～			
3	研究目的	<p>○大阪市教育振興基本計画における「安全・安心な教育の推進、不登校への対応」として、ICT 機器・AIドリルを用いた不登校生徒への学習支援・評価方法の検証</p> <p>○大阪市教育振興基本計画における「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」の達成を目指し、教科横断的視点を視野に入れた、授業内におけるアウトプット方法の確立</p> <p>○大阪市教育振興基本計画における「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」の達成を目指し、観点別・問題別・生徒別の結果分析の自動化を実現するため、校内で各種テストにおけるデジタル採点の導入・検証</p> <p>○英検・数検・漢検の実施により挑戦し続ける生徒の育成</p> <p>○発展学習・基礎学習・不登校生徒の学習支援等、個に応じた学びの充実</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシック 9.5 枠 イト)</p> <p>①教科横断的視点を視野に入れた、授業内での演習・アウトプットに関する方法の検証 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業内における演習・思考ツールの活用・アウトプットの方法を、教科横断的に実施した。 各教科の授業において演習・アウトプットの方法を、試行錯誤して検証し、「今市スタイル」の構築に向けて昨年度に引き続き、今年度も研究を進めた。 1. Googleスプレッドシートを活用し、一問一答の自動作成シートを開発し、生徒は、これを繰り返し用いて、知識を定着させた。一人一台端末を使用した演習では、書く作業がなくなるため、多くの問題に取り組むことができる。また、視覚的な理解にもつながることも利点である。ワークを進めるだけでなく、幅広い方法で、多様な問題に取り組ませることを通して、アウトプットを意識した授業作りを展開した。</p> <p>②AIドリル「navima」の効果的な活用方法の検証 今年度も引き続き「navima」を授業内や家庭学習として、活用することができた。不登校生徒・特別支援学級の生徒も授業内や自宅での学習として活用し、学ぶ意欲の向上を図ることができた。</p> <p>③数学・英語・漢字検定の取り組み 数学・英語検定は年間を通じて2回、漢字検定は年間通じて1回実施することができた。図書予算で、各検定の参考書・問題集などを購入し、各教室や学年の廊下に常時設置した。特に英語検定の受検者数は非常に多く、生徒の学習意欲の向上に努めることができた。</p> <p>④自動採点ソフト「リアテンド」の取り組み 今年度、自動採点ソフトを導入し、その一機能であるS-P表を特に活用した。これは、クラスごとの正答率差分から、クラスの理解度が比較的低い分野を視覚的に把握することができるものである。これを用いて、日々の授業改善に役立てたほか、定期試験後の解説等においても、子どもたちの特に苦手とする領域について、より丁寧なフィードバックを行うなど、効果的な指導につなげることができた。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 5 年 2 月 1 日	参加者数	約 38 名
		場所	今市中学校多目的室		
		備考	「伝わりやすく話す」をテーマにした教員向けの話し方セミナーを実施。		
6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 研修会・校内授業研究会を複数回実施し、本校教員の授業力向上を図る。</p> <p>《検証方法》 参加者アンケートを実施することにより、「研修に参加して授業力向上に努めることができた」の項目で肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>[検証結果と考察] 2月にはNHK放送研修センターの日本語センター講師伊藤健三先生をオンラインでお招きし、全体研修として「話し方セミナー」を行った。大阪市内の他校の先生方からも参加の申し込みがあり、活発な意見を交えた研修となった。「今日の研修が明日からの授業などの教育活動をしていく上で、役に立つと思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をした教員は100%と大変好評であった。今後も、外部講師を招いた研修を実施し、更に充実させたい。</p>			
		<p>【見込まれる成果2】 授業内における演習・アウトプットの方法を模索することにより、授業改善に努め、生徒の学力向上につなげる。</p> <p>《検証方法》 大阪府チャレンジテストにおける本校平均点の対府平均比 1.00を目指す。</p> <p>[検証結果と考察] 年間を通して、各教科での授業において演習・アウトプットの必要性について指導し、取り組みを行ってきた。その成果もあって、3年大阪府チャレンジテストにおける本校平均点の対府平均比 1.03を達成することができた。子どもたちの持つ「勉強といえばインプット」という学力観の転換を組織的に意識させたことが、結果につながったと考える。</p>			
		<p>【見込まれる成果3】 全ての生徒に対して学びへの充実を図ることで、「学校生活が楽しい」と感じる生徒を増やす。</p> <p>《検証方法》 校内アンケートにおいて、「学校での授業が楽しい」の項目に関して、85%以上の肯定的な回答を目指す。</p> <p>[検証結果と考察] ICTの活用、学びあいをいれた授業をすることにより、教育活動に関するアンケート（生徒分）の「授業がわかりやすい」の項目に関して、肯定的な回答の割合は、84%を超えることができた。多様な授業形態の実施、わかる授業の展開などに取り組んだ結果が、学校生活における楽しさを支える形となったと考える。</p>			

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 ICT機器を用いて、授業内・自宅で個に応じた課題を取り組むことにより、自宅での学習時間を増加させる。</p> <p>《検証方法》 研究前と研究後のアンケートを実施することにより、「ICT機器を用いることにより、自宅での学習時間が以前より増えましたか」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察] 教育活動に関するアンケート（生徒分）の「ICT機器を用いることにより、授業に対する興味・関心が高まった」の項目に関して、肯定的な回答の割合は、87%を超えることができ、達成できた。Navimaの導入により、手軽に自宅で学習できる環境の設備が行われた表れだと考える。</p>
		<p>【見込まれる成果5】 検定を実施することで、興味関心を持ち、意欲的に取り組む生徒の育成を目指す。</p> <p>《検証方法》 各検定受検者にアンケートを実施し、「検定の受検により、その教科の勉強する時間が増えた」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p>[検証結果と考察] 数学検定受検者向けにアンケートを実施し、「検定の受検により、その教科の勉強する時間が増えた」の項目で肯定的な回答を100%となり、目的を達成できた。今年度も、英語検定・漢字検定・数学検定を実施できたが、特に英語検定の受検者が、年間でのべ100人をこえている。何かに挑戦をして、結果ができたときの達成感をたくさんの生徒が感じさせ、学習意欲の向上へとつなげることができた。</p>
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。 今年度も「授業改善」を最優先課題として取り組みを行った。効率的に授業を進める上で、授業内におけるアウトプット・演習方法について新たに構築していくことが大事だと考え、今回の研究も2年目を迎えた。今年度は、自動採点ソフト「リアテンダント」を導入した。このソフトの利点は、クラスごとの正答率差分から、クラスにおける理解度の低い分野を視覚的に瞬時に把握することができることである。この機能を有効活用して、授業の改善・生徒へのフィードバックを効果的・効率的に行うことができた。 教員の授業改善のために、全体研修としてNHK研修センターの講師の先生をお招きし、話し方セミナーを実施した。新型コロナウイルス感染防止の観点から、残念ながらオンラインでの研修となったが、とても有意義な研修となり、大変好評であった。このような意味のある研修を今後とも実施したい。 今年度本校で行った「一人一台PCを用いたアウトプットの方法」、授業改善のために研修で学んだ「教員が生徒によりわかりやすく伝える話し方」を土台にし、来年度以降も学力向上を意識した授業を進めていきたい。</p> <p>《代表校園長の総評》 本テーマに掲げる「誰一人取り残さない」学習方法・学習環境の充実は、まさに大阪市教育振興基本計画における基本的な方向性4（誰一人取り残さない学力の向上）と軌を一にするものであると考える。AIドリルをはじめとする学習環境の整備、自動採点ソフト「リアテンダント」の導入、各検定の準会場の設定等、様々な取り組みを行った結果、教職員一人ひとりの研究意欲や指導力の向上が見られただけでなく、何より子どもたちの学びに対する主体性が向上したことは一定の成果と考えている。学びの多様化が進む中、「個別最適な学び」は今後ますます重要なものとなる。以上を踏まえ、来年度の自動採点ソフト全市展開への研究成果の積極的発信や、これまでの取り組みを土台とした教育課程の工夫ある編成を通して、どのような状況においても、一人ひとりの学びを保障できる環境の整備、指導体制の充実に努め、本市教育に貢献していきたい。</p>